



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月3日

上場会社名 日本化薬株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4272 URL <https://www.nipponkayaku.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 涌元 厚宏  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 川村 勉 (TEL) 03-6731-5842  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	167,955	12.2	18,114	340.6	21,003	181.1	13,312	370.5
2024年3月期第3四半期	149,753	△2.5	4,111	△78.4	7,473	△64.4	2,829	△81.4

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 13,502百万円(5.8%) 2024年3月期第3四半期 12,766百万円(△27.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	81.02	81.00
2024年3月期第3四半期	17.06	17.04

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	378,006	271,883	71.7
2024年3月期	363,173	270,548	74.2

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 270,842百万円 2024年3月期 269,560百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	22.50	—	22.50	45.00
2025年3月期	—	22.50	—		
2025年3月期(予想)				37.50	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	223,700	10.9	21,100	187.6	24,100	91.8	17,900	335.2	109.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	165,003,570株	2024年3月期	170,503,570株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	2,871,866株	2024年3月期	4,638,700株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	164,312,092株	2024年3月期3Q	165,828,613株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の実績に与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

2025年2月3日(月)に証券アナリスト及び機関投資家向けにテレフォンカンファレンスを開催する予定であります。使用する資料等は、当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2024年4月1日から2024年12月31日まで)の世界経済は、物価の上昇は抑えられつつあるものの高止まりをしており、また地政学リスクが依然として高く、不透明感が続いています。

このような状況の中、当社グループは2022年度より開始した中期事業計画“**KAYAKU Vision 2025**”が3年目に入り、引き続き事業ごとに定めた「ありたい姿=Vision」に向けたロードマップを実行するとともに、ありたい姿実現に向けて定めた全社重要課題に対し取組を進めています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高はライフサイエンス事業領域が前年同四半期をわずかに下回ったものの、モビリティ&イメージング事業領域及びファインケミカルズ事業領域が前年同四半期を上回ったことにより、1,679億5千5百万円となり、前年同四半期に比べ182億1百万円(12.2%)増加しました。

営業利益はすべての事業領域のセグメント利益が前年同四半期を上回ったことにより、181億1千4百万円となり、前年同四半期に比べ140億3百万円(340.6%)増加しました。

経常利益は210億3百万円となり、前年同四半期に比べ135億3千万円(181.1%)増加しました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は133億1千2百万円となり、前年同四半期に比べ104億8千2百万円(370.5%)増加しました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

## (モビリティ&amp;イメージング事業領域)

売上高は692億9千2百万円となり、前年同四半期に比べ85億8千3百万円(14.1%)増加しました。

セイフティシステムズ事業は、国内は一部大手自動車メーカーでの認証不正問題に伴う影響が解消してきたものの本格的な回復には至らず、エアバッグ用インフレーター及びシートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータは前年同四半期を下回りました。海外はASEANでは主要市場であるインドネシア・タイの自動車ローン審査の厳格化等により、自動車販売が低迷しました。一方、中国市場では補助金やさまざまなインセンティブに支えられ、中国ローカルメーカー向けが好調に推移しました。さらに、円安の進行により売上高が押し上げられたことも加わり、海外はエアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータ、スクイブが前年同四半期を上回りました。この結果、セイフティシステムズ事業全体としては前年同四半期を上回りました。

ポラテクノ事業は、X線分析装置用部材が堅調に推移したことに加え、円安効果もあり、前年同四半期を上回りました。偏光板は前期に実施した一部製品の価格改定の効果もあり、前年同四半期を上回りました。この結果、ポラテクノ事業全体としては前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は両事業の売上高の増加により、108億1千4百万円となり、前年同四半期に比べ49億5千3百万円(84.5%)増加しました。

## (ファインケミカルズ事業領域)

売上高は505億2千7百万円となり、前年同四半期に比べ97億8千5百万円(24.0%)増加しました。

機能性材料事業は、半導体市況の回復によりエポキシ樹脂をはじめ各製品群が堅調に推移したことにより、機能性材料事業全体で前年同四半期を上回りました。

色素材料事業は、産業用インクジェットインク、コンシューマインクジェットプリンタ用色素及び感熱顕色剤が堅調に推移したことにより、色素材料事業全体で前年同四半期を上回りました。

触媒事業は好調に推移し、前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は全ての事業の売上高が増加したことにより、79億8千3百万円となり、前年同四半期に比べ47億8百万円(143.8%)増加しました。

## (ライフサイエンス事業領域)

売上高は481億3千4百万円となり、前年同四半期に比べ1億6千6百万円(0.3%)減少しました。

医薬事業の国内向け製剤は、光線力学診断用剤「アラグリオ®顆粒剤分包」の市場への浸透、他社からの代替供給の要請等により抗体バイオシミラー「ベバシズマブBS」の伸長が寄与し、前年同四半期を上回りました。国内外向け原薬、受託事業、診断薬はいずれも前年同四半期を下回り、医薬事業全体としては前年同四半期を

下回りました。

アグロ事業の海外向け販売については、競争の激しい市場での受注遅れで前年同四半期を下回ったものの、国内向け販売によりカバーし、アグロ事業全体としては前年同四半期を上回りました。

不動産事業は、前年同四半期並みとなりました。

セグメント利益は60億2千万円となり、医薬事業にてアンハート社への契約一時金の支払いがあった前年同四半期に比べ51億3千1百万円(577.5%)増加しました。

## (2) 財政状態に関する説明

総資産は3,780億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ148億3千2百万円増加しました。主な増加は、受取手形及び売掛金83億5千9百万円、原材料及び貯蔵品69億7千2百万円、建物及び構築物(純額)37億1千1百万円であり、主な減少は、有価証券58億7千7百万円、投資有価証券46億8千6百万円、現金及び預金30億3千2百万円であります。

負債は1,061億2千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ134億9千8百万円増加しました。主な増加は、短期借入金98億6千2百万円、支払手形及び買掛金59億2千4百万円、長期借入金54億8千7百万円であり、主な減少は1年内償還予定の社債80億円、未払金24億5千5百万円であります。

純資産は2,718億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億3千4百万円増加しました。主な増加は、自己株式18億6千9百万円であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、米国経済が堅調に推移しているなど期待が出来る面がある一方で、ロシアのウクライナ侵攻を始めとした地政学リスク、米国新政権による関税の引き上げ、中国不動産価格の調整の長期化や各国の金融引き締め策などにより景気の下振れリスクがあります。

このような状況において、当社グループは事業環境の変化に対応し、株主価値を高める経営資本の最適化を進め、グローバルな成長市場で既存ビジネスの拡大と新事業・新製品の展開を加速させ、収益の拡大を図ってまいります。

なお、2024年11月11日に公表いたしました2025年3月期の業績予想を修正しております。詳細につきましては、2月3日公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	56,749	53,716
受取手形及び売掛金	60,268	68,627
電子記録債権	1,942	1,897
有価証券	9,428	3,550
商品及び製品	41,561	43,183
仕掛品	1,129	886
原材料及び貯蔵品	24,318	31,290
その他	7,951	9,557
貸倒引当金	△204	△267
流動資産合計	203,146	212,442
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	44,109	47,821
機械装置及び運搬具（純額）	26,131	26,133
その他（純額）	28,397	33,713
有形固定資産合計	98,638	107,668
無形固定資産		
のれん	783	679
その他	2,912	3,419
無形固定資産合計	3,696	4,099
投資その他の資産		
投資有価証券	45,481	40,795
退職給付に係る資産	6,735	6,935
その他	5,524	6,108
貸倒引当金	△48	△43
投資その他の資産合計	57,692	53,795
固定資産合計	160,027	165,563
資産合計	363,173	378,006

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,018	24,942
短期借入金	5,450	15,312
1年内償還予定の社債	8,000	-
未払金	18,669	16,214
未払法人税等	1,555	2,501
その他	7,121	8,295
流動負債合計	59,815	67,266
固定負債		
長期借入金	18,000	23,487
退職給付に係る負債	433	432
その他	14,375	14,936
固定負債合計	32,809	38,856
負債合計	92,624	106,122
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,932	14,932
資本剰余金	15,840	15,857
利益剰余金	199,214	198,518
自己株式	△5,413	△3,543
株主資本合計	224,573	225,764
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,508	15,309
為替換算調整勘定	26,241	27,694
退職給付に係る調整累計額	2,237	2,073
その他の包括利益累計額合計	44,987	45,077
非支配株主持分	987	1,040
純資産合計	270,548	271,883
負債純資産合計	363,173	378,006

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	149,753	167,955
売上原価	104,343	113,776
売上総利益	45,409	54,178
販売費及び一般管理費	41,298	36,063
営業利益	4,111	18,114
営業外収益		
受取利息	585	686
受取配当金	948	966
持分法による投資利益	89	3
為替差益	1,411	1,151
その他	803	676
営業外収益合計	3,837	3,484
営業外費用		
支払利息	131	197
その他	345	397
営業外費用合計	476	595
経常利益	7,473	21,003
特別利益		
固定資産売却益	170	6
投資有価証券売却益	1,385	1,056
特別利益合計	1,555	1,063
特別損失		
減損損失	75	-
固定資産処分損	461	666
投資有価証券評価損	4,265	2,330
特別退職金	-	158
特別損失合計	4,802	3,154
税金等調整前四半期純利益	4,226	18,912
法人税、住民税及び事業税	2,739	5,093
法人税等調整額	△1,393	450
法人税等合計	1,345	5,544
四半期純利益	2,881	13,368
非支配株主に帰属する四半期純利益	52	56
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,829	13,312



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	2,881	13,368
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,590	△1,200
為替換算調整勘定	4,345	1,497
退職給付に係る調整額	△53	△166
持分法適用会社に対する持分相当額	3	3
その他の包括利益合計	9,885	134
四半期包括利益	12,766	13,502
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,654	13,402
非支配株主に係る四半期包括利益	112	100

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

## ① 自己株式の取得

当社は、2024年5月13日および2024年11月11日の取締役会決議に基づき、当第3四半期累計期間において自己株式3,859,600株を4,890百万円で取得しました。

## ② 自己株式の処分

当社は、2024年6月26日の取締役会決議に基づき、2024年7月19日付で譲渡制限付株式報酬として自己株式89,543株の処分を行いました。これにより、その他資本剰余金が5百万円増加し、自己株式が105百万円減少しております。

また、2024年8月27日の取締役会決議に基づき、10月18日付で日本化薬従業員持株会向け譲渡制限付株式として37,400株の処分を行いました。これにより、その他資本剰余金が3百万円増加し、自己株式が44百万円減少しております。

## ③ 自己株式の消却

当社は、2024年11月11日の取締役会決議に基づき、2024年11月25日付で自己株式5,500,000株の消却を行いました。これにより、その他資本剰余金15百万円、その他利益剰余金6,595百万円、自己株式が6,611百万円減少しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末の資本剰余金が15,857百万円、利益剰余金が198,518百万円、自己株式が3,543百万円となっております。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首より適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる当第3四半期連結累計期間における四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
	モビリティ&イメージング事業領域	ファインケミカルズ事業領域	ライフサイエンス事業領域	計		
売上高						
外部顧客への売上高	60,709	40,742	48,301	149,753	—	149,753
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	129	0	130	△130	—
計	60,709	40,872	48,301	149,883	△130	149,753
セグメント利益	5,861	3,275	888	10,025	△5,913	4,111

(注)1 セグメント利益の調整額△5,913百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,860百万円及びセグメント間取引消去△53百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管

理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「モビリティ&イメージング事業領域」セグメントにおいて、連結子会社のデジマ テック B.V. は経営環境の変化に伴う収益性の低下等により、減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては75百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計算書計上額 (注) 2
	モビリティ&イメージング事業領域	ファインケミカルズ事業領域	ライフサイエンス事業領域	計		
売上高						
外部顧客への売上高	69,292	50,527	48,134	167,955	—	167,955
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	141	0	141	△141	—
計	69,292	50,669	48,134	168,096	△141	167,955
セグメント利益	10,814	7,983	6,020	24,818	△6,703	18,114

(注) 1 セグメント利益の調整額△6,703百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△6,620百万円及びセグメント間取引消去△83百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	10,251	10,222
のれんの償却額	420	106